
2018年、ユニセフは
147カ国において
目標分野4に取り組み、
以下の支援を
実施しました。

- 1,860万人に安全な飲料水へのアクセスを提供
- 1,080万人に基本的な衛生サービスを提供
- 47カ国に災害、気候変動、紛争、公衆衛生上の緊急事態などのリスクに対処する、子どもに配慮した政策を支援
- 51カ国に環境の持続可能性に関する活動の展開を支援

目標分野4の総支出：10億米ドル

右：コンゴ民主共和国で、マリー・マデリーン小学校のトイレを検査するレイチェルさん(12歳)。汚れているトイレがあった場合は教師に報告します。ユニセフは、井戸、トイレ、洗面台、衛生キットなどの基本的な支援物資をレイチェルさんの学校に提供しています。

© UNICEF/UN0271291/Tremeau





目標分野 4 :

すべての子どもが 安全で衛生的な環境で暮らすこと

子どもたちの健康や安全、幸福の多くを形づくるのは、その子が生まれ、暮らし、遊ぶ物理的な環境です。

安全で清潔で安心できる環境とは、飲料水や衛生設備（トイレ）、衛生サービスが利用しやすく、また、災害や紛争の危険を軽減する対策が図られた環境であり、子どもの権利と要望に対応した都市計画や行政、子どもたちの状態の把握が適切に行われている環境です。

ユニセフ戦略計画の目標分野 4 は、子どもたちが生きていく環境に影響を及ぼすさまざまな課題——水と衛生に関する諸問題、災害リスクの軽減やレジリエンス(回復力)の強化、平和構築、都市計画と地方行政、さらには気候やエネルギーなど地球環境の問題——に取り組みます。

悲しいことに、世界では何百万人もの子どもたちが安全で清潔、安心できる環境にありません。最新のデータによれば、自宅で安全な飲料水を利用できない人は世界で 21 億人に上るほか、基本的な衛生設備（トイレ）を利用できない人たちが 23 億人、屋外排泄の習慣を持つ人は 8 億 9,200 万人に上ります。2016 年には、5 億 7,000 万人の子どもたちが学校で飲料水を飲むことができず、6 億 2,000 万人以上が基本的な衛生設備を利用できない状況にありました。

紛争や暴力の影響で脆弱になった国々では、14 歳未満の子どもが人口の約 40% を占めています。そして世界の子どもたちのほぼ 4 分の 1 が、洪水の多発する地域で生活しています。

水と衛生

2018年、ユニセフは105カ国で水と衛生分野の開発プログラムを展開し、72カ国で同分野の人道支援活動を行いました。

約1,900万人の人々が安全な水道（改善された水源からの水で、収集時間が30分以内、国の飲料水水質基準を満たした水）を利用できるようになりました。このうち700万人は開発プログラムを通じて、1200万人は人道支援活動の一環である水インフラの構築などのプログラムを通じて安全な水を利用できるようになりました。

ユニセフは7,710の学校が男女に分かれた衛生設備（トイレ）が利用できるような支援。また3,355の医療施設における水と衛生サービスの改善をサポートしました。

ユニセフは基本的な衛生サービスを利用できるようにすることに加え、屋外排泄の根絶を目指すプログラムも支援しています。2018年は、26の優先国に焦点を当てた「屋外排泄ゼロ作戦」（Game

Plan to End Open Defecation）を完遂。アフガニスタンの5地区、ケニアの2郡、フィリピンの4自治体、ニジェールで初めての屋外排泄ゼロの自治体となったバガロアを含む世界2万2,470の地域社会で屋外排泄の根絶を達成しました。またインドでは、「クリーン・インド・ミッション」（Swachh Bharat Mission）が2018年に18州の屋外排泄ゼロを宣言しました。

人道危機下において、ユニセフは64カ国の4,300万人以上に安全な水を提供。この支援には、給水サービス、浄水、および長期的な水インフラの構築が含まれます。

さらに46カ国で1,300万人以上に衛生設備（トイレ）を提供。440万人近い子どもたちの、学校、あるいは（人道危機下における）一時的な学習スペースにおいて、ジェンダーに適した水と衛生の施設と衛生習慣の推進を支援しました。

下：ソマリランド地方の町で、欧州連合（EU）が資金提供するプログラムを通じて供給された水で手を洗う子どもたち。町で最初の安全な水源です。

© UNICEF/UN0316248/Knowles-Coursin



@UNICEF パートナーシップ 2018：水と衛生

スウェーデンは、ユニセフの水と衛生分野における活動を支える最大の出資国です。2018年から2021年までに7,000万米ドル以上を水と衛生プログラムに拠出することを表明しました。この強力なパートナーシップは、2030年までに6,000万人の衛生状態を改善するという目標を含むSDGs（持続可能な開発目標）達成に向けたスウェーデンのリーダーシップに根差しています。スウェーデンの支援によってユニセフは、水と衛生のプログラムにおいても、ジェンダー平等、障がい者の権利、その他の分野横断的な課題の解決に取り組むことが可能になりました。

オランダ政府からの支援によってユニセフは2018年に西部・中部アフリカの水と衛生プログラムを加速することができました。NGOやNPO、地方政府機関と協力して衛生教育を推進し、地域の給水システムの開発を支援しました。

この分野におけるもうひとつの重要なパートナーであるドイツ政府は2018年、シリア難民危機などで脆弱な状況にある子どもと家族への水と衛生の支援を強化しました。またエチオピア、スーダン、ウクライナ、イエメン、ザンビアの子どもたちや家族にとっても、ドイツ政府による持続可能な水と衛生プログラムへの支援は極めて重要なものとなりました。

韓国政府は、水と衛生のサービスと衛生習慣の改善を通じて、気候変動に対するコミュニティのレジリエンスを強化する決意を明らかにしました。2018年、ケニアの乾季と極端な気候の影響の中で生活している子どもたちが水を利用できるようにし、衛生設備（トイレ）、衛生習慣の改善も支援したほか、モンゴルの農村地域で地域社会が主体となって気候変動に対する水と衛生のレジリエンスを強化する活動もサポートしました。

LIXILとユニセフは、2018年に世界的な衛生危機に取り組むための革新的なパートナーシップを開始しました。エチオピア、ケニア、タンザニアを皮切りに、このパートナーシップは、啓発活動、教育、

そして需要創出を通じて包括的な市場を開拓することで、世界中の数百万人が基本的な衛生設備（トイレ）を利用できるようになることを目指しています。これらの取り組みに、低価格で高品質な衛生製品およびサービスが組み合わせられます。

ユニセフとユニリーバは2012年からパートナーシップを結び、行動変容を促し衛生習慣を変えていく活動により、総計1,600万人以上の人々に支援を届けてきました。2018年、ユニセフとユニリーバは衛生設備と衛生習慣に関するパートナーシップを拡大し、インドの15万の学校で水と衛生の改善と維持を目指した取り組みを盛り込みました。またこのパートナーシップは、ブラジル、インド、ベトナムで1,000万人の子どもたちに教育を提供するのにも貢献しました。



防災、平和構築、都市計画

2018年には、281件の気候関連および地球物理学的事象が6,000万人を超える人々に影響を及ぼし、少なくとも1万733人が尊い命を落としました。ユニセフは、災害によって引き起こされるさまざまな危機を軽減するため、世界15カ国でリスク情報を活用した防災対策、紛争予防、平和構築のための技術支援を実施しました。

2018年末までに47カ国が、気候変動、紛争、公衆衛生上の緊急事態、およびその他のリスクに対処し緩和する、子どもに配慮した戦略、政策、計画を配備しました。

さらに、ユニセフは、平和構築基金(Peacebuilding Fund)を通じて22カ国で他の国連機関と協力しました。この取り組みは、子どもの保護、若者と青少年の参加、地域社会での活動、教育、地方行政に焦点を当てたものでした。ボスニア・ヘルツェゴビナでは、若者が国の課題の優先順位を決定し、政策を形成する発言権を持てるよう支援を行いました。

世界では都市環境で暮らす子どもが増えており、平均して農村部の子どもよりもサービスを受けやすく、より高い収入と優れたインフラから恩恵を受けています。しかしユニセフの調査によって、一部の国の最も貧しく脆弱な都市部の子どもたちの生活は、農村部に暮らす同年代の子どもよりも悪化していることが明らかになりました。2018年、ユニセフは、都市に暮らす子ども向けのプログラムを再び活性化し、都市部および地方自治体への支援を実施しました。

その結果、32カ国、409の自治体が子どもへの対応策と予算計画を整備しました。

気候変動、エネルギー、環境

気候変動、エネルギー、環境におけるユニセフの支援プログラムは、気候変動に配慮した水と衛生のインフラ整備や、保健分野、教育分野、さらに変化の推進力としての若者に焦点を当てています。2018年は2017年の2倍となる28カ国が気候変動に対するレジリエンスを高める活動において、子どもも対象に含めたプログラムを実施していると報告しました。

ユニセフは教育プログラムの改定にも取り組んでいます。例えば中国では、学生および非就学の青少年のためのライフスキル教育(自分たちを取り巻く問題に自ら効果的に対処できるようになるための教育)の大幅な改訂の際、環境保護と気候変動に関する単元を盛り込み、13省の中学校および職業学校で試験的に実施されました。



Bangladesh のコックスバザール地区にあるバルカリ難民キャンプで、傘の下で雨をしのぐ子ども。ユニセフ、Bangladesh 政府、その他の現地パートナーは、隣国の Myanmar から逃れてきたロヒンギヤの子どもや家族の多くが避難を求めている地域で、地滑り、鉄砲水、水に起因する感染症の危険から子どもたちを守るために日々懸命な活動を続けています。

© UNICEF/UN0219067/Nybo